

★4回集中連載「栄光なき天才たち」★

■第1次世界大戦景気で、一気にのし上がった鈴木商店。ロンドン支店に、凄く天才商人がいた……。



世界商業の中心地
ロンドン
大正三年（1914年）

貿易商社にとって
本国と並ぶ
重要地である

絶好調!! 『栄光なき天才たち』

鈴木商店

鈴木商店の
若き獅子……

ミス夕
夕力ハ夕登場。

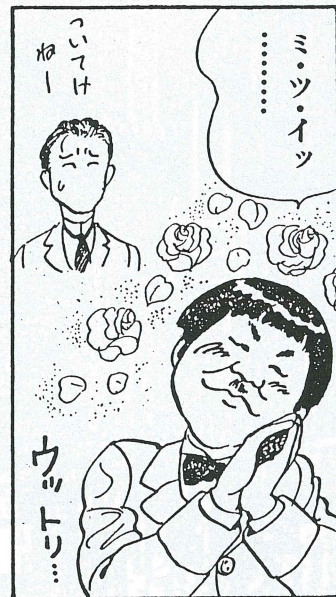
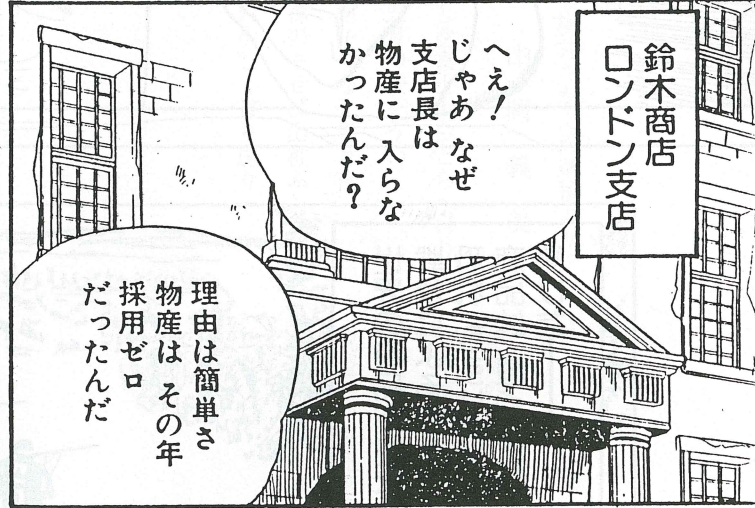
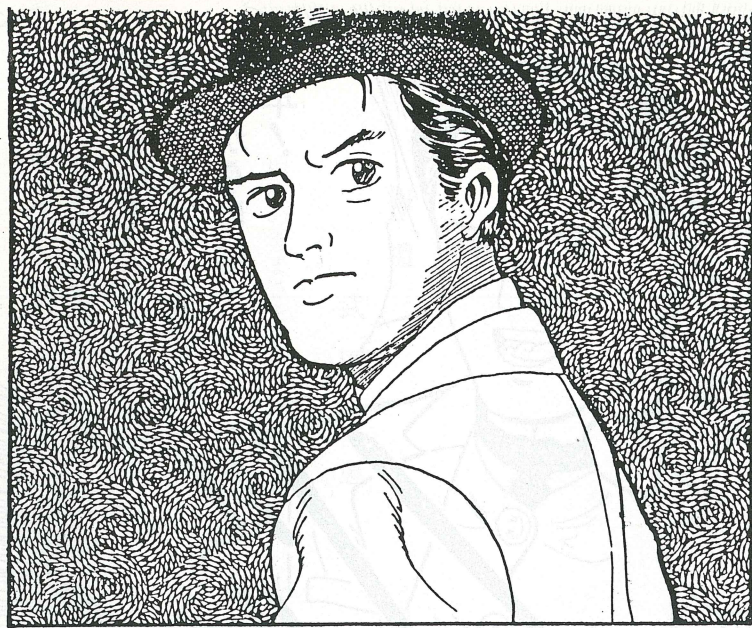
第20話②

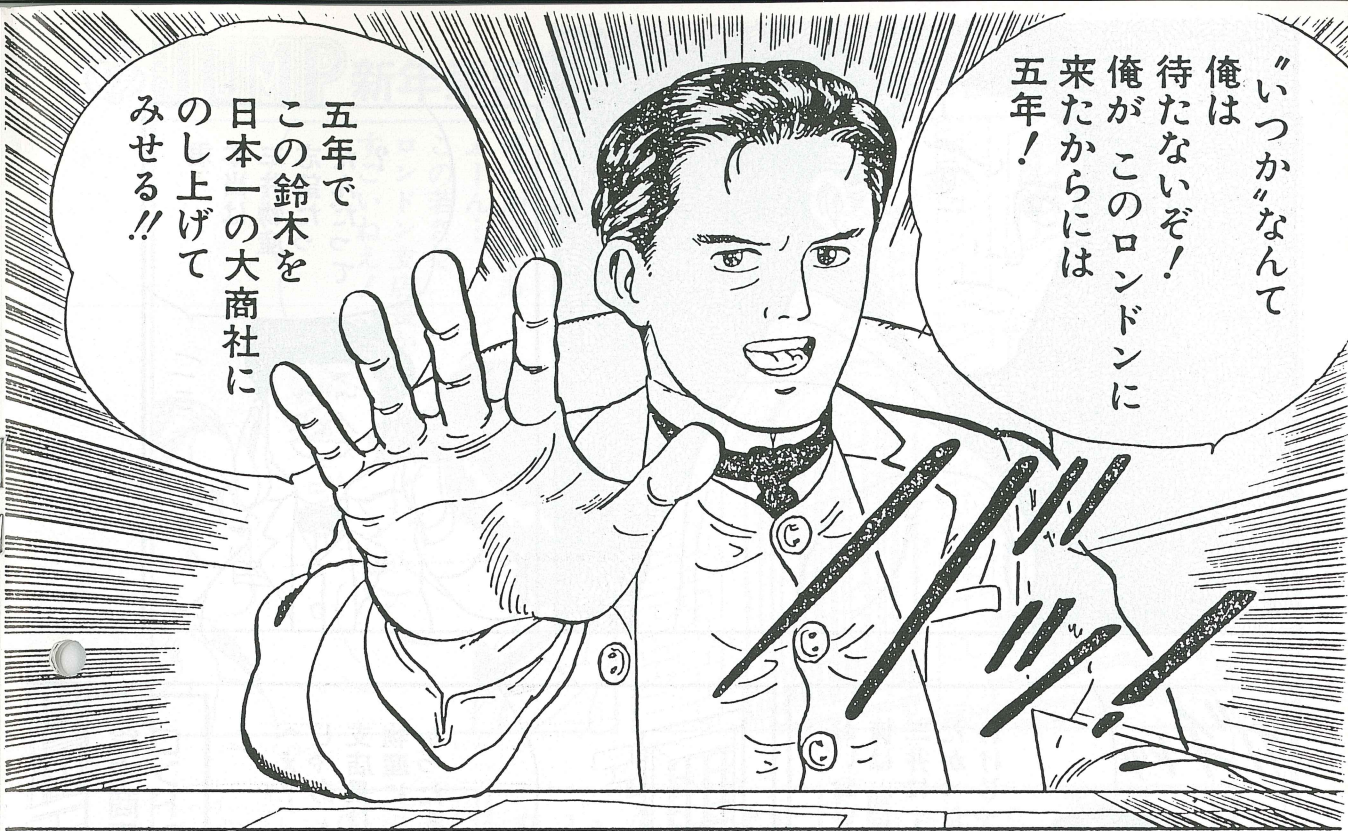
皇帝・高畑誠一

作伊藤智義
画森田信吾

高畑誠一（26歳）
鈴木商店は
このロンドンに
わすか
20代の若者を
支店長として
送り込んでいた

★この作品は、事実をもとにしたフィクションです。事実といささか異なる点があります。ご了承下さい。





「いつかなんて俺は待たないぞ！俺がこのロンドンに来たからには五年！」

五年でこの鈴木を日本一の大商社にのし上げてみせる！！

俳句

虹の輪
柳田 義一

虹の輪の要めの影は無色かも
白魚の水より透ける橋の下
急いでは視線の見えぬ昼の火事
青柿の渋味が走る初時雨
天に従い人生あり米寿の賀

新能
(故福井さかえ氏遺稿より)

山岡 義美

西風吹きし夕富士太白とらへけり
新能大鼓五月の空をうい
動くもの何一つなし星月夜
葛城に女神のませば山粧ふ
芹の水流れ少しく移り居り

梅
岡田 静女

盆梅の昨日一輪今日二輪
枝垂梅地に三寸のところまで
梅散つて馥郁の香の土に消ゆ
祝盃といふ花菖蒲純白に
花菖蒲少しゆる、も亦艶に



そして第一次大戦勃発！

世界の商品市場は戦争による被害を恐れ取引は停滞商品は値くずれを続けた――



だが商品値くずれの嵐の中大番頭 金子直吉の 大号令がとんだ！！

梅檀
武田 雪恵
法師蟬
北野 浅美

梅檀の美まさをなるつぶらなる
鷹を待つ双眼鏡をしかと持ち
よく肥えし親牛につき仔の馳ける
吾亦紅心引かるる振りかへる
村豊か柿も蜜柑もつぶらなる
水蓮の雨溢れおり青蛙
独り来ておちつく宿や遠花火
萍や今日は今日なり明日は明日
鳴く声のせつなくなりぬ法師蟬
硯洗ふ父の残せし窪みあり



〈あとがき〉
誌中にもありました通り辰巳会発足以来、本部事務局として御世話願っていた松下重男氏が辞任され、その後任として浅学非才乍ら御引受することになりました。
早速本誌編集に当り悪戦苦斗の結果御覧のような処女作となりました。
御見苦しい点はどしどし御指摘頂きますよりよいものにしたいたいと思っておりますので、今後共、「たつみ誌」のみならず辰巳会全般の仕事につきましてもよろしく御指導賜りますようお願い申し上げます。
尚、松下重男氏は辰巳会幹事及び本誌編集統轄者として引続き御世話になることを附言いたします。
(南前 義夫)